

水レター「びわ湖・よど川」

2012. 4 【vol. 23】
独立行政法人 水資源機構 関西支社 発行

水レター「びわ湖・よど川」は、水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における水資源機構に関する情報、琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を関西管内の関係者（利水者、関係府県、関係市町村及びその他の関係機関）の皆様にご直接配信させていただきます。

目 次

1. 平成24年度挨拶
随想「映画“黒部の太陽”を見て44年前にワープ、そして原発事故に思う」・・・1p
2. 室生ダムクレストゲート動的安全水門の「認定書」が授与される！・・・3p
3. 関西管内の水源地状況・・・4p
4. 全国的に強風をもたらしたのは「爆弾低気圧」！！・・・5p
5. 「仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ(関西いろはかるた)」ご紹介・・・6p
6. イベント情報・・・7p
7. 編集後記・・・8p

～お悔やみ～

奈良市水道管理者 福村圭司氏におかれましては、4月20日に他界されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1. 平成24年度挨拶

随想「映画『黒部の太陽』を見て44年前にフーズ、そして原発事故に思う」

2012/04/08

水資源機構 関西支社 原稔明

3. 11の東日本大震災から一年が経過した3月17日、BSプレミアムで四十四年ぶりにあの裕次郎の不朽の名作「黒部の太陽・特別編」を懐かしく見ました。

3月17日の朝、今晚BSで「黒部の太陽」があると聞かされ、その後同僚のYさん、Iさんから相次いでメールにて案内がありました。

自分の記憶では初めて見たのは中学時代と思っていたのですが、当日の新聞の番組欄には1968年とあり、どうも中学3年後半から高校1年の時であったようです。

当時の映像で唯一鮮明に記憶に残っているのが、たしか冒頭あたりで技術者が集まった座卓の上で割り箸を折って日本列島の真ん中を走るフォッサマグナを説明したシーンです。このシーンが何時何処ででくるのか久しぶりに逸る心を抑えて画面に見入る中、「あの割り箸を折ったのは裕次郎扮するトンネル技術者だったんだ」と記憶がほぼ正しかったことを懐かしい映像の中に確認して不思議な感動に浸りました。

ところで、当時私の通う高校では一年生時に「地学」を教わり、その授業の中で「琵琶湖周辺でもやがて大地震が起こるから家財を倒れないようにするなど対策しておくこと」と地学のS先生から言われ、早速自宅の筆筒を倒れないように固定したこととともに、日本列島の動き、地球の動き、宇宙の動きを学んだ「地学」が一番面白い授業であったことも思い出します。フォッサマグナ（西縁は糸魚川静岡構造線）なる専門用語もその時教わったような気がします。滋賀、京都で昨今話題となっている「琵琶湖西岸断層」「花折断層」なる活断層に起因する直下型地震の発生に当時から警鐘をならされていたのだと、今となってはS先生の卓見を思い起こしました。

もうひとつ、四十四年前の高校一年生にとって忘れられないことは、国語を教えるH先生から西堀栄三郎氏の「南極越冬記」を読むことを薦められたことです。内容はほとんど覚えていないのですが、何故か「西堀栄三郎」という名前だけはその後私の頭から離れず、社会人になってから今日まで何冊かの氏の著書を読み、技術者の目指すべき姿勢を教えられました。

そんな中、昨年の東北地方太平洋沖大地震に起因する大津波によって大事故となった福島第一原子力発電所に関連して、西堀栄三郎氏の長男の東京工芸大学名誉教授の西堀岳夫氏の「西堀栄三郎のパイオニア精神」なる記事を読みました。ここに、一部分を紹介いたします。

「真夜中の鶏一。父・西堀栄三郎は生前、よくそのように言われていました。物事の先を読むのが非常に早く、その時代の考え方にはマッチしないため、周囲からはうるさがられてしまう。しかし、いままさに世間を騒がしている原発についても、事故発生時の危険性を早くから訴え、それに替わる原子炉の開発が急務であると繰り返し主張していました。……栄三郎は、晩年、「トリウム溶融塩炉」という新しい原子炉の開発に最後の情熱を傾けていました。これはトリウムという資源を用いるもので、現在ほとんどの原発で使われているウラン利用炉と異なり、安全性や経済性、核拡散防止性などに非常に優れています。病床にあっても、その道の一番弟子である古川和男氏に「いま研究はどうなった？」

と盛んに尋ね、見舞客にも溶融塩炉の素晴らしさをうわ言のように語りかけていました。栄三郎は日本で初めて東海村の原子炉に火を点した人でもあるため、原発の現状には人一倍心をくむしめられていたのでしょう。……栄三郎は南極から帰国した後、「異質の協力」という言葉を何度も何度も口にしていました。十一人の隊員達が、同質ではなく、それぞれに異なった考え方をする者同士であったからこそ、足りない部分を補い合い、協力することが出来たと。その大切さを極限の状況下で身に沁みて感じたのでしよう。この異質の協力こそ、いま私たち日本人に強く求められているものではないでしょうか。」

次に、ダム技術者、水技術者としての私のバイブルとなっている西堀栄三郎著の「創造力ー自然と技術の視点からー」より一部分を抜粋紹介させていただきます。

「最近では技術が大掛かりになってきて、ものすごく大規模な工事が行われるようになった。このために、自然破壊という問題も大きく取り上げられるようになってきたのではないだろうか。私が技術を志した頃の技術とは隔世の感がある。

しかしながら、総じていえることは、技術は“自然の恵みを受ける”のだということ。自然に対する感謝の念を忘れてはならない。謙虚な態度で技術を行わなければならない、ということである。この感謝の気持ちと謙虚さをもって自然に接すれば、大自然は私たちの行為を許し、人類の幸福のために多くの果実を与えてくれるはずである。

ところが、私たちはそれを忘れるときがある。傲慢にも自然を技術によって征服しようとか、そのときだけよければいいというようなことをやろうとするときがある。こういうとき、自然は人間に対して厳しい反省を迫ってくる。このことを、私たちは肝に銘じておくべきであろう。」

ところで、西堀栄三郎氏が亡くなられたのは、1989年4月である。現在の原子力の安全性を危惧し、ウラン利用炉より格段に安全で新しい原子炉を夢見て亡くなられてから、原発事故が起こった昨年2011年で既に22年が経過していたわけです。トリウム塩溶融炉は、アメリカや中国で研究が進んでいると聞きましたが、マスメディアを通して我が国では少なくとも私には一向にその全貌は見えてきません。

事故発生直後、プレート地震、大津波そして原子力を取り巻く科学者、技術者の口から「想定外」と言う言葉が発せられたわけだか、大技術者かつ初代の東海村原子力研究所長は、「現行の原子力発電の事故発生時の危険性」を、そして「それへの対応を怠ると自然は人間に対して厳しい反省を迫る」と今日の姿をまさに想定していたわけです。

西堀栄三郎氏の卓越した自然観、技術論そして新たな原発への取り組みが国家レベル、科学技術界で正しくかつ真摯に継承されていれば、昨年の悲惨な福島第一原発の事故は防げていたと思うとともに、より安全な新しい原子力発電への動きが既に顕在化していたかもしれません。

一人の技術者として、我が国の科学技術界の現状を思うと、悲しくまた残念でなりません。

最後に、西堀栄三郎が南極から帰国後しきりと言われていた「異質の協力」こそ、震災後東北の人たちの忍耐力と協力精神を形容する「絆」そのものだと思います。氏は今から50年も前から「異質の協力」つまり「絆」の重要性に気づいておられてわけです。氏の慧眼に頭が下がります。

私どもも「異質の協力」を今一度肝に銘じて、利水者の皆様、関係機関の皆様そして流域の皆様との密接な協力にて、「多すぎる水」「少なすぎる水」への安全と安心をお届けするという水資源機構に課せられた使命に引き続き努力して参ります。

本年度も、さらなるご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

以 上

映画「黒部の太陽」とは

【あらすじ】

関西電力が社運をかけて挑む、黒部川第四発電所（黒四ダム）工事。その現場への唯一の輸送路のトンネル工事には、「破碎帯」突破という至難の悪条件が待ち受けていた。岩岡剛（石原裕次郎）は、反発していた父に代わって、その現場の指揮をとることになった。・・・

【解 説】

構想四年、三船敏郎と石原裕次郎の日本映画を代表する二代スターの共演がついにここに実現した。当時としては破格の三億九千万円を投じて製作。この映画にかけた情熱と意欲は、日本映画界に最高の話題を巻き起こし、総入場者数七三三万七千人、興行収入十六億円と当時の映画史上最高の金字塔をうち立てる。

「この映画に出演しない俳優は時代遅れみたいな映画にしたいー石原裕次郎ー」

2. 室生ダムクレストゲート 動的な安全水門の「認定書」が授与される!

関西支社 機械G

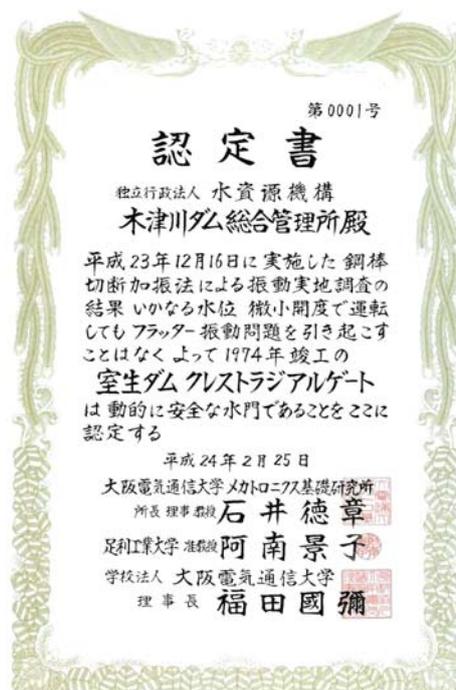
平成24年3月28日大阪電気通信大学において、福田理事長・石井教授から原関西支社長・柴田木津川ダム総合管理所長に、室生ダムクレストゲートに関し動的に安全であることを証明する「認定書」が、授与されました。



柴田所長・原支社長・石井教授・福田理事長

従来、ダムからの放流を行う場合に、微小開度でゲート放流を行うと、ゲートの扉体自体が振動を起こす現象が懸念されておりますが、大阪電気通信大学のご協力の下、平成23年12月室生ダムゲート設備整備工事に併せて実放流による「現地測定試験」を行い、その動的解析の結果、どんな水位でも、どんな微小開度でも大きく振動することなく安全に運転可能であることが解明され、「室生ダムクレストゲートは動的に安全である」ことが認定されました。このことにより、今後のゲート操作及び水運用管理において、より一層効率的にダム管理を行うことができるようになりました。

この現地試験及び解析に当たっては、大阪電気通信大学工学部機械工学科 工学博士 石井徳章教授を始めとして、先生の門下生である足利工業大学 工学部創生工学科 工学博士 阿南景子准教授及び大阪電気通信大学の研究室の学生さんの多大なご協力の下実施することができました。ゲートそのものを用いた実証試験を実施することは希なことではありますが、私ども水資源機構としても安全な施設管理を目指す上で、大事な実証試験であったとともに、「認定書第1号」を授与いただいたことは、誠に名誉なことです。



クレストラジアルゲートにおける
鋼棒切断加振法の試験状況

3. 関西管内の水源状況

気象庁の発表によると、3月の気候は、上旬は暖かく湿った空気の影響を受けた日が多く、中旬以降は寒気の影響を受けた日が多かったため、寒暖の変動が大きかったようです。その影響で、上旬は、低気圧や前線の影響により太平洋側を中心に曇りや雨の日が多く、ダム等への流入量が豊富であったため、水資源機構（関西管内）の施設における水位は、比較的安定して推移しました。

なお、高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダム、一庫ダムでは、6月16日からの洪水期にむけて、徐々に水位を下げる操作に入っております。

～ 水資源機構（関西管内）の水源状況 ～

平成24年4月26日 9:00現在

施設名	貯水位(標高. m)	貯水量(万m ³)	貯水率(%)	降水量(mm)
高山ダム	129.73	3,663	74.5	77
青蓮寺ダム	275.86	1,808	94.7	87
室生ダム	294.85	1,267	95.3	95
布目ダム	283.35	1,216	95.7	73
比奈知ダム	298.95	1,384	90.4	98
一庫ダム	144.91	2,217	82.7	85
日吉ダム	189.66	3,288	91.3	72
琵琶湖開発	B.S.L. +21cm	—	—	114.1
7ダム 合計	—	14,843	80.0%	—

※1 琵琶湖水位は、4月26日 6:00の水位を表示しています。

※2 貯水率は、10月16日～6月15日までの、非洪水期の利水容量で計算しています。

※3 雨量について、琵琶湖開発は流域平均雨量、各ダムはダム地点雨量を表示しています。

※4 雨量は、4月1日～25日までの累計値です。

水資源機構の関西管内における各ダムの貯水状況は、関西支社HPの水源情報に掲載しております。

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/html/suigenn/suigenn.htm>

5. 「仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ(関西いろはカルタ)」のご紹介

第一次南極越冬隊長などを歴任した西堀榮三郎博士らが選んだ創作ことわざ「西堀かるた」があります。それは、ユーモアと示唆に富み、その面白さと生活に“希望を与え、決心を促し、人生を楽しくする”西堀かるたは近年賛同者が増えています。水資源機構関西支社でも、「西堀かるた」に習い、国民や利水者からの更なる信頼を得て、より強い組織づくりを図るため、職員一人ひとりの仕事への取り組み方、定時退庁の呼び掛けや心構え等も含めた日頃の業務の指標として、「関西いろはカルタ」を平成23年度に作成いたしました。

以下に、関西管内の事業所で取りまとめた『仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ(関西いろはカルタ)』を紹介いたします。

今回は、『に』、『ほ』、『へ』、『と』です。



水資源機構『業務改善チャレンジ・コンテスト』～グランプリ受賞作品～

関西支社の顔ぶれがかわりました。 4月1日の転入・転出者

前任者に引き続き
よろしくお願ひします。

部名	課名	役職	転入者	旧所属	転出者	転出先
総務部	総務課	総務課長	上田 豊夫	豊川用水総合事業部	石井 英樹	中部支社総務課長
			中嶋 恵美	愛知用水総合管理所	富士澤 誠	琵琶湖開発総合管理所 用地保全課
		調査役	※組織廃止・定員削減		大橋 匡	池田総合管理所副所長
	利水者サービス課		内海 敏幸	両筑平野用水総合事業所	星野 浩志	利根導水総合事業所総務課長
事業部	施設管理課	施設管理課長	廣瀬 正一	木津川ダム総合管理所	福井 正泰	利根川下流総合管理所副所長
			※補充無し		和田 美会	豊川用水総合事業部 管理課
	計画課		(藤本 智宏)		上ノ町 勝志	草木ダム管理所
	設計環境課		山本 淳	近畿地方整備局	黒川 明博	近畿地方整備局
			尾西 昭彦	大山ダム建設所	(藤本 智宏)	飛鳥歴史公園事務所工務一課長
	中津川管理室	室長代理	山下 多津見	愛知用水総合管理所	山口 清隆	木曾川用水総合管理所 管理課
			津田 守正	本社管理事業部	山元 優作	北陸地方整備局 河川部 河川工事課
			鶴田 信	池田総合管理所	田口 智浩	木津川ダム総合管理所 比奈知ダム管理所
設備課		笠原 諭	木津川ダム総合管理所	松浦 良宏	近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所専門官	

なお、総務部に加え事業部調査役も廃止し、総務課△1、建築課△1の定員削減を実施した。

今年も、関西管内の各地で（水資源機構を含めた）それぞれの機関が開催するイベントが予定されています。御参加・御見学にお越し下さい。

行事名	開催時期	開催場所	主催	概要
2012 マス釣り&猪名川浄化運動大会	4月29日(日)	一庫唐松公園	猪名川漁業協同組合	釣り大会及び猪名川周辺ごみ集め
布目ダム見学会	5月20日(月)	布目ダム(奈良市北野山町 869-29)	木津川ダム総合管理所・布目ダム管理所	ダム施設見学
第25回青山高原つつじクォーターマラソン大会	5月27日(日)	青山高原(室生赤目青山国立公園内道路)	伊賀市、伊賀市教育委員会、青山スポーツクラブ	マラソン大会
名張クリーン大作戦	6月3日(日)	三重県名張市内	名張クリーン大作戦2012実行委員会	環境美化活動

水資源機構では、平成24年3月16日より、新たな情報提供手段として公式ツイッターを始めました。



水資源機構ツイッターのURLは、 http://twitter.com/jwa_PR

ツイッターを通じ、水資源機構ホームページに掲載している情報等を発信してまいります。

水資源機構として、これまで以上にタイムリーで広がりのある情報発信に取り組んでいきますので、皆様からのフォローをお待ちしています。是非ご利用下さい。



ダム堤体の上空を泳ぐ『鯉のぼり』(一庫ダム)

一庫ダムの堤体上空では、『鯉のぼり』が群をなして、元気に泳いでおります。

この『鯉のぼり』は、兵庫県川西市をはじめとする地元の方々のご厚意により提供いただいたもので、平成18年から毎年4月下旬～5月中旬にかけて飾られます。

山々の新緑を背景に、鯉のぼりが一層引き立ち、さわやかな景観を創り出しています。



鯉のぼりとクラシック・カー(比奈知ダム)

三重県名張市をはじめとする地元の方々から提供を受けた『鯉のぼり』が、比奈知ダム堤体の上空に飾り付けられました。

4月23日には、ダム堤体の道路を利用して、約50台のクラシック・カーが走るイベント「La Festa Primavera 2012」が開催され、盛況のうちに終わりました。

ダム堤体を泳ぐ鯉のぼりは、5月6日(日)まで飾られていますので、ご覧ください。

7. 編集後記

今年、大阪の桜の開花は4月2日とのこと、今年の冬、寒かったせいか平年3月28日より5日遅い開花となりました。

4月は人事異動の季節でもあります。水機構の人事異動も東日本大震災の復興支援に関連して国土交通省などへの出向者が多かったことから、異動者の数としては例年になく多かったのではないのでしょうか。全国各地で出会いの桜、別れの桜に想いを馳せた今日この頃です。

さて、本年3月17日に石原裕次郎さん主演の「黒部の太陽」（特別版）がNHK・BSプレミアムで放送されました。映画「黒部の太陽」は、「黒部ダム」建設のため長野県大町市から富山県立山町を結ぶ関電トンネルの掘削におけるトンネル貫通までの苦闘と葛藤を描くドラマで、昭和43年2月に公開された3時間半にも及ぶ大作です。テレビ放映は海外に向けた作品として約2時間半に編集されたものが放映されました。テレビ放映となると昭和54年10月8日にテレビ朝日系列で放送され、今回の放送は実に33年ぶりとなること、故石原裕次郎さんの意志でDVDなどのソフト化されていないこともあって、この幻の名作が放映されることは誰もの悲願だったのです。

私は、昭和54年のテレビ放映を同期入社の方隊長（現Y野川局長）と観たように記憶しています。記憶が正しければ実に33年ぶりに放送を観た訳ですが、当時の新鮮な感動がそのまま蘇ります。

破砕帯にぶち当たり、切り羽（トンネルの先端）が崩壊し、湧水が発生し、トンネル業者の岩岡（石原裕次郎）が流されるシーンは、まさに現代の特撮を超えた迫力を感じます。また、度重なる困難にもめげず果敢に掘削作業を進め、湧水も収まり、貫通というシーンでは大町側からの熊谷組と迎え掘りの間組の作業員が抱き合って喜びます。トンネル掘削で競い合う両社でしたが、互いの偉業を讃え、喜び合う場面は感無量です。

ところで、この映画は東北大震災の復興を祈念して、5月より全国各地にて完全版として公開されるとのことです。震災からの復興は幾多の困難に直面しています。この作品を観た多くの人が復興への勇気が湧くことを願ってやみません。是非皆様も劇場にてご覧下さい。

冒頭の関西支社長挨拶と内容が重複するところがありますが、この想いを皆様に伝えたくペンを執りました。

余談：トンネル開通後、樽酒をヘルメットで飲むシーンがあります。一度はそんな場面に遭遇し、おいしいお酒を飲みたいものです。

平成24年4月吉日

関西支社 利水者サービス課長 今井敬三

[水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望・ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。（耳寄りな情報もお待ちしております。）](#)

mailto: w-kansai@msg.biglobe.ne.jp